



心を込めた「あいさつ」

校長 垣崎 晃

早いもので1学期がスタートして2か月が過ぎ、折り返しに入りました。不安定な日もありましたが、おおむね過ごしやすい2か月間でした。

以前、電車の中で席を譲りました。「ありがとうございます。助かりました。」と丁寧にお礼を言われ、「どういたしまして」と言うことは珍しいことではありません。

改めて、「ありがとう」の言葉を考えてみました。他の方に親切にしたとき、自然に返された「ありがとう」は大変気持ちのよいものです。「ありがとう」は「有り難い」「あり得ない」という意味だったそうです。「なかなかありそうもない」「珍しい」ことから徐々に「身にしみてうれしい」という、お礼や感謝の気持ちを表すことに替わっていったものだと思います。相手の行為を素直に受け、心を込めて「ありがとう（ございます）」と言えるように、相手から「ありがとう（ございました）」と言われるような親切や協力、思いやりの行動がとれるようになりたいものです。

今年度も、大東小学校では「あいさつ」に取り組んでいます。先週には登校時、代表委員会による「あいさつハイタッチ運動」も行われました。少し照れながらも、あいさつする子供たちもいました。あいさつの輪が広がってほしいです。

また、「すみません」や「お願いします」などの言葉も、素直に出して言えたとき互いの思いが伝わり合うと思います。素直に言葉を返すことができるようになることも、必要だと考えています。そして、心を込めて言おうとするとき、互いへの「思いやり」が必要になります。今後は、心を込めてあいさつができることを目指したいと思います。

あいさつの形をしっかりと身に付け、形だけではなく、相手を思いやる心を込めたあいさつができるようにしていきたいものです。

五月の全校朝会で「語先後礼」の話をしました。「おはようございます」などの言葉を言い終えてから、礼をすることです。今、大東小の子供たちは朝会や授業の始まりや終わりに行うことができます。敬意や感謝の気持ち（心）がないとできませんし続きません。しっかりと身に付け、「あいさつ名人」になってもらいたいです。保護者や地域の皆様も、子供たちに応援をお願いします。